

(技術士事務所 稲葉 IT ガバナンス研究所 脱炭素 DX モニタリング)

第1号（創刊号）：2025年3月31日（月）～2025年4月6日（日）報道分

週刊 脱炭素 DX ニュースウォッチ 2025（日経 XTech 編）の第 1 号（創刊号）を配信いたします。

<目次>

- ☐ 3/31 (月)
- ☐ 4/1 (火)
- ☐ 4/2 (水)
- ☐ 4/3 (木)
- ☐ 4/4 (金)
- ☐ 4/5 (土)
- ☐ 4/6 (日)

*2) 各記事のタイトルに続いて、編集者が生成 AI（ChatGPT）と対話をしながら作成した数行の要約文章を記載しています。

<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/mag/nmc/18/00009/00094/>

旭化成の久世副社長は、日本 IBM での経験を生かし、製品化前でも収益化可能な研究・開発モデルの構築に挑戦しています。研究成果を自社製品に限定せず、知財を外部と共有しコンサル料などを得る「TBC」を推進。DX や組織改革にも取り組み、異分野融合や外部連携による開発加速を図ります。2035 年に 300 億円の収益目標を掲げ、自由で挑戦的な研究風土の醸成も進めています。

【3/31・日経 XT】レポート ヤマ発の設楽新社長が描く技術戦略、研究開発費 1300 億円増の 4900 億円 木崎健太郎 日経クロステック／日経ものづくり

<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/mag/nmc/18/00012/00349/>

ヤマハ発動機は、2025 年度からの新中期経営計画で研究開発費を 1300 億円増の 4900 億円に拡大し、技術戦略を強化します。設楽新社長の下、エネルギーマネジメントや知能化、ソフトウェアサービスを新たなコア技術とし、水素エンジンや自動運転技術などの開発を推進します。コア事業である二輪車・マリン分野に重点的に投資し、環境計画では温室効果ガス排出量を 2010 年比で 2027 年に 74%削減、2035 年のカーボンニュートラル達成を目指します。

【3/31・日経 XT】ニュースの深層 仕入れ価格引き上げに本気のトヨタ、旧型補給品も脱炭素対応も負担 近岡裕 日経クロステック／日経ものづくり

<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/mag/nmc/18/00011/00293/>

トヨタ自動車は、2025 年度から仕入れ価格の引き上げ対象をサプライチェーン全体に広げ、本気で価格転嫁に取り組みます。材料費やエネルギー費、人への投資など従来の 6 要素に加え、新たに旧型補給品費とカーボンニュートラル対応費も加味します。特に脱炭素対応では、再エネやリサイクル素材使用に伴うコスト増を同社が負担します。ティア 2 以降の企業への支援強化を図る一方、独禁法上の制約にも配慮し、ティア 1 を介した連携と支援を進めています。

【3/31・日経 XT】ニュース解説：建築・住宅 麻布台ヒルズなど初認定 14 件を一覧、国の優良緑地評価制度「TSUNAG」が始動 木下 順平 日経クロステック／日経アーキテクチャ

<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/column/18/00154/02380/>

国の新制度「TSUNAG（優良緑地確保計画認定制度）」が始動し、麻布台ヒルズなど 14 件が初認定されました。都市計画区域内で質の高い緑地整備を行う民間プロジェクトに対し、無利子貸付などで支援を行い、緑地の確保と質向上を促進します。評価は最大 150 点満点で、緑地面積と質に応じて三段階にランク付けされ、最高評価のトリプル・スターは 10 件。認定は国際的な ESG 評価との連携も図られており、企業の脱炭素経営にも資する制度となっています。

[目次へ](#)

□ 4/1（火）

【4/1・日経 XT】ニュース解説：建築・住宅 「ゼロカーボンベースボールパーク」の阪神 2 軍新球場、野球施設初の ZEB Oriented 山崎 颯汰 日経クロステック／日経アーキテクチャ

<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/column/18/00154/02381/>

阪神タイガース 2 軍の新球場「日鉄鋼板 SGL スタジアム 尼崎」が、国内野球施設で初めて ZEB Oriented 認証を取得しました。この球場は「ゼロカーボンベースボールパーク」の中核施設として整備され、LED 照明や断熱強化、再生素材の活用などで一次エネルギー消費量を 43%削減。太陽光発電や蓄電池も導入し、電力の 80%超を自家発電で賄う計画です。持続可能な都市整備の先進事例として注目されています。

[目次へ](#)

□ 4/2 (水)

【4/2・日経 XT】 インフラビジネスウオッチ 突出する VINCI のコンセッション利益率、米有料道路で初の大型買収 瀬川 滋 日経不動産マーケット情報、編集協力：インフラビジネスパートナーズ

<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/column/18/02673/033100012/>

フランスの VINCI 社は 2024 年、売上高約 11.8 兆円・EBIT 約 1.5 兆円で過去最高業績を達成しました。特に道路や空港運営を担うコンセッション部門は、売上高の 16%に対して EBIT の 63%を占め、利益率 49%と群を抜いています。米国の有料道路「Northwest Parkway」の買収やブラジルでの長期運営権獲得など、グローバル展開も強化。高収益なインフラ運営ビジネスとしての存在感が一層高まっています。

【4/2・日経 XT】 記者の眼 日本の太陽光発電が大復活へ、苦境の洋上風力発電にも可能性 野澤 哲生 日経クロステック／日経エレクトロニクス

<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/column/18/00138/040101733/>

第 7 次エネルギー基本計画では、太陽光発電に対する姿勢が大きく転換され、「終わった」とされた太陽光への注力が復活しました。特に、営農型太陽光発電や荒廃農地・インフラ空間の活用が打ち出され、2040 年までに約 300GW の導入目標が示されています。一方、洋上風力発電は期待に反し資材高騰などで事業が停滞し、導入熱が冷めた様子がうかがえます。ただし、長期的には再び注目される可能性もあると記事は指摘しています。

【4/2・日経 XT】 ニュース解説 Lamborghini が「ターボなのに 1 万 rpm」の新型エンジン、V10 を手放した理由は？ 伏木 幹太郎 日経クロステック／日経 Automotive

<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/column/18/00001/10446/>

ランボルギーニが新型 PHEV「テメラリオ」に搭載した V 型 8 気筒ツインターボエンジン「L411」は、量産スポーツ車用としては異例の 1 万 rpm を実現しました。これは高回転型 NA エンジンのような加速感をターボでも再現するための設計で、ウラカンの V10 に代えて小型・軽量の V8 を選択したことが背景です。モーターとの組み合わせによりターボラグを補い、環境性能も大幅に向上。CO2 排出量を最大 50%削減したと発表しています。

【4/2・日経 XT】 ニュース デンソー系と東京科学大の AI 研究講座が発展、認識・学習から「制御」へ 宮武 朋晃 AI・データラボ／日経クロステック

<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/news/24/02341/>

デンソーITLABと東京科学大学は、2025 年 4 月より新たに「認識・制御・学習アルゴリズム共同研究講座」を開設します。従来の AI による認識・学習に加え、制御分野へ研究を拡張することで、自動運転やロボティクスなど次世代モビリティ技術の中核を担うことを目指します。モビリティ産業の電動化・知能化が進む中、AI と制御技術の融合による社会的インパクトの創出を狙っています。

[目次へ](#)

□ 4/3 (木)

【4/3・日経 XT】 ニュース NTT データ子会社のクニエ、データを活用してサプライチェーンの改善を支援 大川原 拓磨 日経クロステック／日経 NETWORK

<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/news/24/02363/>

NTT データ子会社のクニエは、2025 年 4 月にサプライチェーンの課題解決を支援する新サービス「SCM データインサイト・コンサルティング」を開始しました。本サービスは、定性的な情報とビジネスデータを組み合わせ、「問題抽出」「原因特

定「解決策策定」「効果算定」の 4 段階で SCM の改善を支援します。背景には、気候変動やパンデミックなどによる SCM の複雑化があり、財務指標や KPI で効果を定量的に把握する必要性が高まっています。

【4/3・日経 XT】ニュース 大型トラックが原因の医療費は EV のインフラ費用を上回る 櫛谷 さえ子 日経 Automotive 専属ライター

<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/news/24/02355/>

フィンランドの非営利団体 CREA は、大型トラックの排ガスによる健康被害の医療費が 2014～2040 年で世界全体で 1 兆 4000 億ドル超に達し、EV インフラ整備費を上回ると報告しました。特に NOx 排出が健康や経済に深刻な影響を与え、母子への被害や労働生産性の低下も指摘されています。報告書は、NOx 以外の有害物質も含めたさらなる損失を見込んだ上で、トラックの電動化を加速する政策の必要性を訴えています。

【4/3・日経 XT】見てきました知られざる実力派工場 スマート農業で JA 事業を DX、連携・共創で 1 兆円市場創出目指す AGRIST（後編） 長島 聡 きづきアーキテクト 取締役会長／ファウンダー 工学博士

<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/column/18/01264/00040/>

AGRIST はスマート農業を基盤に、JA 事業の DX と 1 兆円規模の市場創出を目指しています。ピーマン収穫ロボットの導入に留まらず、自治体や企業と連携して再生農業や新設農業を推進し、農業金融・保険・不動産分野への展開も視野に入れています。AI によるデータ活用や農場価値の算定、収穫の効率化、柔軟な就農支援などを通じて、農業の持続可能性と多様性の確保を図りつつ、産業全体の構造転換に挑んでいます。

【4/3・日経 XT】トレンド解説 from 日経エネルギーNext 窮地の三菱商事に光明？ 政府が洋上風力の救済策を続々公表 山家 公雄 エネルギー政策研究所長

<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/column/18/02421/033100079/>

政府は、事業環境の悪化で苦境にある洋上風力発電への支援策として、三菱商事グループが落札した第 1 回公募（R1）事業の FIT から FIP への移行を認める方針を示しました。これにより売電収入が保証され、事業の継続性が高まりますが、他の落札事業者との公平性や国際的な信頼性への懸念が指摘されています。制度上の問題はないとされるものの、議論の透明性や再入札の必要性については慎重な検討が求められています。

[目次へ](#)

□ 4/4（金）

【4/4・日経 XT】トレンド解説 from 日経エネルギーNext 2024 年度の系統用蓄電池補助金、採択結果を読み解く（第 8 回） 目黒 文子 グローシップ シニアストラテジスト

<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/column/18/02421/033100080/>

2024 年度の「系統用蓄電池補助金」は、過去最大の約 346 億円規模で 27 件が採択されました。特に北海道と九州での採択が多く、調整力の必要性が背景にあります。1 件あたりの平均補助額や最大補助額も年々増加し、市場の成長がうかがえます。また、小売電気事業のライセンスを持たない異業種からの参入も活発で、多様なプレーヤーが台頭しています。さらに今年度から事業の年度またぎが可能となり、建設業界などからは歓迎の声が上がっています。

[目次へ](#)

□ 4/5（土）

該当記事なし

[目次へ](#)

□ 4/6 (日)

該当記事なし

目次へ

[illegible]

(技術士事務所 稲葉 IT ガバナンス研究所 脱炭素 DX モニタリング)

週刊 脱炭素 DX ニュースウォッチ 2025 第 1 号 : 4/7 配信

編集者：稲葉 裕一 (principal@inaba-itgl.com)

ご意見・ご要望やお気づきの点があれば、編集者までご連絡ください

□ □